

2016/10/25 (Tue.) 第101号

日本医師連盟ニュース

日本医師連盟ニュース
 - 発行所 -
 日本医師連盟
 東京都文京区本駒込5-73-3
 駒込SKビル1F
 〒113-0021
 TEL: 03-3947-7815
 FAX: 03-3947-2662
 E-mail: info01@nichiiiren.jp

http://www.nichiiren.jp/

定価 1年400円 (但し日医連負担金を含む)

第18回医療政策研究会開かれる

医師偏在問題に対する解決は法律による強制ではなくプロフェッショナルオートノミーで



第18回医療政策研究会開かれる

10月18日午前8時より第18回医療政策研究会(社会保障に関心をもつ自民党中堅若手議員と日医連との勉強会・会長 武見敬三参議院議員)が開かれた。

た新潟県知事選挙を受けて、「国民に政策的な安心感を提供できなければ政権与党にとって厳しい状況になるのでは」という感想が述べられた。また、自民党の「財政再建に関する特命委員会の最終報告」、「骨太の方針2015」で社会保障費の自然増

医療政策研究会は、事務局長の吉川貴盛衆議院議員の「年末の予算編成に向けて当研究会としても適切な医療費の財源確保に頑張っていきたい」という挨拶でスタート。武見敬三会長は、「来年度予算編成において、医療・介護の基本政策の変更が行われる可能性が出てきた。好ましいもの、好ましくないものがあるが、この会としても政策の変更が適切なものがあるのか明確にしていきたい」と発言した。



日医連の見解を述べる 横倉義武委員長

の伸びに対し、単年度目安として〇・五兆円の上限がかけられていることに対し、「政治の場で決められたことに対し政治の場で解決していただきたい」と発言した。また、現在、かかりつけ医以外を受診した際の外来時定額負担の導入が議論されていることに対しては、受診抑制

につながらるとの反対を表明した。高齢者の薬剤負担を二割にするなど所得の多寡に応じた負担の検討、紹介状なしで特定機能病院・大病院を受診した場合の定額負担の適用の拡大等、先に検討していただきたい点があると述べた。

次に今村聡副委員長から、「医師の地域・診療科偏在解消の緊急提言」(2015.12.2 日本医師会・全国医学部長病院長会議

予算編成の考え

続いて厚生労働省から、「社会保障費の自然増に対する抑制については、①「高額療養費制度の限度額の見直し」、②「後期高齢者医療制度保険料の軽減特例の見直し」、③「入院時の光熱水費の見直し」、④「金融資産のある高齢者の負担の見直し」、⑤「かかりつけ医の普及に伴う、かかりつけ医以外の受診時定額負担」、⑥「スイッチOTC薬の保険償還率の見直し」といった政策の組み合わせで対応したい」と説明があり、平成二十九年に廃止されることになっている療養病床について、長い平均在院日数、多い死亡退院といった特性から、住み機能強化した新しい類型で対応していききたいとの説明がな



武見敬三医療政策研究会会長

医師偏在解消検討合同委員会)に基づき日本医師会の考えである医師の偏在対策、今後の医師養成数のあり方について意見表明がなされ、法的強制力ではなく、日医、医師たちによる自主的な解決がなされるべきだとうたった。また、医療機関における控除対象外消費税問題の抜本的解決、地域医療確保のための医療継続に係る税制措置について要望を行った。

された。さらに消費税の税率引き上げが延期され、財務当局が医療に係る消費税の抜本改革を、本年十二月までに行う必要はないという考えでいることが説明された。

これに対し、横倉日医連委員長、武見会長らが意見を述べ、出席国会議員、厚生労働省と意見交換が行われた。

年末の来年度予算編成に向けて、これまでの医療政策研究会の議論の結果を政策提言として十一月までに取りまとめることとなった。

横倉委員長、尾崎東京都医政連委員長

厚生労働大臣を訪問



(左から)尾崎東京都医政連委員長、塩崎厚生労働大臣、横倉日医連委員長 大臣室にて

十月三十一日、横倉義武日医連委員長は、尾崎治夫東京都医師政治連盟委員長とともに厚生労働省に塩崎恭久厚生労働大臣を訪ね、二〇二〇年東京オリンピック、パラリンピック競技大会における熱中症対策について

は真夏の時期にあたるため、選手のみならず内外の観客として一般市民の間で多数の熱中症患者が発生することが予想されることから、関係者、日本医師会、東京都医師会、郡市区医師会が連携を密にし、適切に医療を受けられる環境を整備することを申し入れた。また、現在法制化に向けて準備が進められている受動喫煙防止法の早期の制定を要請した。

さらに、横倉日医連委員長が次期世界医師会会長(二〇一七年十月就任予定)に選出されたことが報告された。

の協力を申し入れた。東京五輪・パラリンピック開催期間(七月下旬〜九月上旬)

羽生田俊議員 参議院厚生労働委員長就任



羽生田俊 参議院厚生労働委員長

九月二十六日、参議院は羽生田俊参議院議員を厚生労働委員長に選任した。

参議院一期目、当選から三年

で委員長に選任されるのは異例。参議院厚生労働委員会の与党筆頭理事として尽力してきたことが評価された。羽生田議員は就任にあたり、「厚生労働委員会では扱う問題は国民生活に直結しており、政局に左右されることなく議論できるようにしていきたい」と強調した。

(二面に関連記事)

第192回国会開会にあたって

9月26日より、第192回国会（臨時会）（会期66日、会期末11月30日）が開かれている。

日本医師連盟の代表として参議院に在籍する羽生田俊議員にとっては一期目後半戦最初の、自見はなこ議員にとっては文字どおり初の本格的国会。お二人に、この第192回国会に対する思いをご寄稿いただいた。

委員長として挑む国会

参議院厚生労働委員長
参議院議員

羽生田 俊

皆さま方におかれましては、平素より医政活動にご理解を賜り感謝を申し上げます。

また、本年7月の参議院議員選挙におきまして日本医師連盟推薦候補の自見はなこ先生が210,562票を獲得され自民党比例候補者中9位（医療関係団体として1位）で当選させていただきました。日本医師連盟を出身母体とする参議院議員が2名になったのは実に9年ぶりのことで、全国のご支援を賜りました先生方に心より御礼と感謝を申し上げます。日本医師連盟を出身母体とする参議院議員が2名になったことにより国会においていっそうの推進力となれるよう自見はなこ先生と力を合わせ、また、今まで以上に多くの同志の議員と連携し仲間を集い、国民の目線を見た医療や介護、社会保障を構築し、また守り抜く決意であります。さて、9月26日の第192回臨時国会開会におきまして参議院厚生労働委員長を拝命いたしました。これもひとえに平素よりお支えをいただいている先生方のご支援と、やはり日本医師会という力強い支え、そしてその日本医師会での13年半に及ぶ活動の証と感じております。

当選以来、参議院厚生労働委員として厚労行政に注力して参りましたが、先の第190回国

会（常会）においては与党の筆頭理事として与党国対との連携、また野党の筆頭理事との交渉や調整など、政策だけでなく政局という駆け引きの場にも身を置き、法案修正や議事・採決などの重要な場面も多く経験させていただきました。この経験は、政策ありき国民のためという一点で国会が運営され議論されていると思っていた私にとっては衝撃でありました。まさに国会の場では、政策よりも政局が大きく法案審議に関わっており、野党との駆け引きや交渉、タイミングや粘り強さなど一歩間違えば政争の具になりかねない綱渡りのなかで、一つひとつ丁寧に、時には思い切って法案を成立させていかなければならないことを経験いたしました。

今回は、厚生労働委員長となり、下働きや調整という役割よりは、行司役と申しますか、与野党という枠組みを超えて、委員会を公平・公正、着実に運営することが使命となります。参議院の厚生労働委員会においては、委員長は質問の機会がないので、医師会案件や医療・介護についての国会質問は、同じ厚生労働委員会の所属となりました自見はなこ先生にお任せをすることとなります。まさに組織内候



羽生田俊参議院厚生労働委員長 委員長席にて

補として表裏一体となってしっかり努めて参る所存であります。

また、議員活動としては日医の答申よりお預かりしております「成育基本法」「医療基本法」に関しまして、法制化にむけた取り組みを加速して展開して参ります。受診時定額負担や医師偏在対策、控除対象外消費税問題、かかりつけ医の推進、医療と介護の同時改定など日本医師会と連携をし、あるべき姿への議論をして参ります。

「国民皆保険を守る！」ということを念頭に、規制改革や財政論だけに押されることなく、しっかりと「守るもの、変えていくべきもの」を見分け、患者さんが安心して医療を受けられ、医療者が安心して医療を提供できる体制「すべての人にやさしい医療を」を充実・発展させて参ります。

今後ともご支援よろしくお願いたします。

医療の大切さを伝える架け橋として

参議院厚生労働委員
参議院議員

自見 はなこ

先日、7月10日に開催された参議院議員通常選挙において自民党比例区第9位で初当選をさせていただきました。医師連盟の先生方、関係各位の皆さまのご支援のおかげで医療系候補者のなかで第1位の成績でした。横倉義武委員長のもと、羽生田俊先生と二人三脚で活動できることはなにより心強く、改めて深い感謝を感じておりますとともに、準備期間の1年半の間に訪問した先々にて先生方から教えていただいた都市部での医療の課題や、地方での人口減少の実情、医療・介護の現状や課題に対し、国政の場で立法府の一員かつ与党の一員としてお役に立てるよう精進していきたいという決意を新たにしております。

初登院させていただいた第191回臨時国会の開会式では、天皇陛下より新たに当選した我々議員に対して「国民の信託に応えるよう切に望みます」というお言葉を賜り、「信じて託す」という言葉の深さ、いただいた立場の重さを噛みしめました。

すべてが初めてのことばかりで緊張の続く毎日ですが、素晴らしい参議院自民党の同期にも恵まれています。当選年度にちなみ同期会は「二八会（にっばちかい）」と名付けられ、元職の方を除き16名で構成されています。幹事となりました私は主に連絡役など庶務を担当していますが、新人同士でまだ慣れない国会生活を助け合いながら過ごしています。

自民党においては、青年局、女性局、新聞局、組織本部のなかにある厚生関係団体委員会などに

所属しております。

45歳までの議員が所属する青年局では、小泉進次郎先生をはじめとする幹部の議員によりチームが構成され、次世代の社会保障を考える積極的な議論も行われております。そのなかで希少な医療職の議員として発言させていただく機会を頂戴しております。医療の役割や国民皆保険の大切さなど日常から患者様と接し、地域に根差して活動していれば当たり前だと思われる“常識”がありますが、分野が違ふとその理解や立脚点はまったく違うものであります。医療費削減という名目の前に、ともすると我々からみて重要だと思われる分野をも削減しようという提案も出て参ります。たとえば、咳や腰痛や発熱などの初期症状は薬局でOTCで、というような案も示されるわけですが、軽微と思われる初期症状が重症な病態の初期症状ということもあるわけです。そこから重症化した場合に発生する医療費や機会損失のほうが大きい場合もあります。わかりやすい例え話などを織り交ぜて丁寧に自民党議員の先生方にもご説明をさせていただかなければいけないと思っています。同時に、我々から提案できることも多くあります。たとえば禁煙やフレイル予防など健康寿命を延ばすための有効な手立ても根気よく伝えていく必要を感じているところです。政策決定をする野党のなかで医療の大切さを伝える架け橋の存在になれば、と願いながら新人として活動させていただいております。そのほか、死因究明プロジェクト



自見はなこ議員 参議院本会議場にて

チームの幹事、地方創生総合戦略本部の本部長補佐の役職など頂戴いたしました。医療・介護・福祉なくして地域社会は成り立たないということを地方創生の立場からも訴え、下働きさせていただき、この1年半の期間に私が見せていただいたもの、感じたものを与党議員として発言提言を行うことで、皆さまに少しでも還元していきたいと思っております。

さて、9月26日から本格的審議である第192回臨時国会が開会いたしました。医療系第一位当選であったことが後押ししてくれて、競争率が最も高い厚生労働委員会に希望どおり所属することができました。専門医の仕組み、地域包括ケア、介護人材の不足、消費税の問題、医療現場における男女共同参画、成育基本法の制定など課題は山積しております。また医療が災害時に果たす役割はますます重要になってきております。数ある被災地への想いを込めて災害特別委員会にも所属しております。羽生田俊厚生労働委員長のもと、医師連盟の議員として有益な議論が展開できるように委員として頑張っていきたいと思っております。